

# カルビーのサステナビリティ経営

～カルビー 自然の恵みを持続可能へ～

2025年1月29日  
カルビー株式会社  
サステナビリティ推進部  
高木 星治

# 【本日の内容】

1. カルビーグループの概要
2. サステナビリティ経営
3. カルビーの環境課題への取り組み
  - ・自然の恵みを持続可能に繋げる  
カーボンニュートラルの達成  
〈温室効果ガス排出量削減〉

# 【本日の内容】

1. **カルビーグループの概要**
2. サステナビリティ経営
3. カルビーの環境課題への取り組み
  - ・自然の恵みを持続可能に繋げる  
カーボンニュートラルの達成  
〈温室効果ガス排出量削減〉

# カルビーグループの主なブランド



## スナック



海外で販売 (※)



## シリアル



## 土産用製品



## その他



(※) Harvest snaps : さやえんどうの派生品で、北米、英国、シンガポール、オーストラリア等で販売

\* 時価総額を除き、数値はいずれも2024年3月末時点

創立

**1949年**

上場

**2011年  
3月11日**

証券コード

**2229**  
(プライム市場)

採用インデックス

**JPX日経インデック  
ス400**

資本金

**120億円**

時価総額

**4,325億円  
(PBR2.1倍)**

2024年12月9日時点

発行済株式総数

**1.3億株**

連結売上高

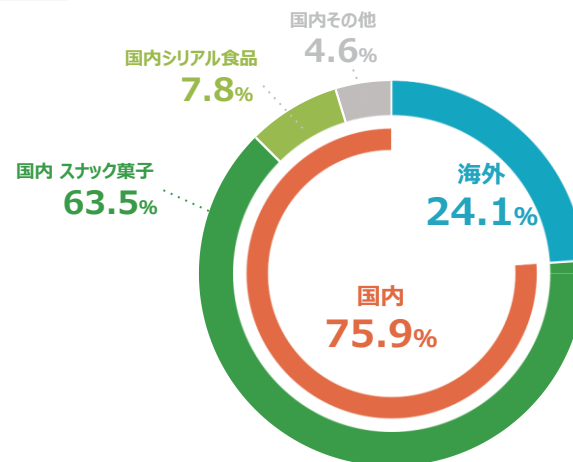
**3,030億円**

連結子会社数

**21社**

従業員数 (連結)

**4,939名**



(注) 2022年3月期から、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号等)を適用し、従来は販売費および一般管理費に計上していた販売費の一部(リベート等)を売上高から控除する方法に変更しております。なお、国内製品別および海外地域別の売上高はリベート等控除前の売上高を記載しています。

## 国内市場シェア

# No.1



スナック菓子

# 51.7%



ポテトチップス

# 69.8%



シリアル食品

# 36.1%

出所：(株) インテージ SRI+全国業態  
金額ベース 2023年4月～2024年3月

スナック市場シェア：カルビー（株）とジャパンフリトレー（株）の合計  
ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り)・ポテトシュースト・ケトル合算、非公開PB含む

## 売上高100億円以上の ブランド数

# 6

 ブランド



# カルビーの大切にしている思い

創業者：松尾 孝

**1949年**（昭和24年）に**広島**にて創立  
カルビーキャラメルの製造販売からスタートした



## 創業の精神

**健康**に役立ち、**安全で安価**な商品づくりと、  
**未利用な食糧資源**を活かした商品づくりを  
目指して、社内の英知を結集するために  
企業を組織する

# カルビーグループが大切にしている想い (Our Value)

## コーポレートメッセージ

掘りだそう、自然の力。

**Calbee**

## 企業理念

私たちは、**自然の恵みを大切に活かし、**  
おいしさと楽しさを創造して、  
人々の健やかなくらしに  
貢献します。

## グループビジョン

顧客・取引先から、  
次に従業員とその家族から、  
そしてコミュニティから、  
最後に株主から  
尊敬され、賞賛され、  
そして愛される会社になる



# カルビーロゴに秘められた想い

# Calbee

## カルシウム+ビタミンB<sub>1</sub>の造語

# 【本日の内容】

1. カルビーグループの概要
- 2. サステナビリティ経営**
3. カルビーの環境課題への取り組み
  - ・自然の恵みを持続可能に繋げる  
カーボンニュートラルの達成  
〈温室効果ガス排出量削減〉

**環境や人権など多くの社会課題が  
企業活動に影響を及ぼしている。**

**持続可能な社会なくして、  
カルビーグループの持続的成長なし。**

# 持続可能な社会の実現

カルビーグループは、サステナビリティ経営を通じて「社会価値」と「経済価値」の両立を目指します。

**社会価値**  
(社会・環境課題の解決)

**経済価値**  
(事業の成長)

# マテリアリティの特定

継続的な事業成長とサステナビリティ経営の推進を  
 両輪として、企業価値向上を目指す

外部環境の変化を分析し、現在のマテリアリティ・KPIを見直し  
 人権や生物多様性の課題等、対応の重要性が高いテーマを追加して、  
 5つのマテリアリティと13の課題を再特定

	1.人々の健やかなくらしと多様なライフスタイルへの貢献	2.農業の持続可能性向上	3.持続可能なサプライチェーンの共創	4.地球環境への配慮	5.多様性を尊重した全員活躍の推進
大			<ul style="list-style-type: none"> <li>●カーボンニュートラルの達成</li> <li>●プラスチックによる環境負荷の低減</li> <li>●循環型社会の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食の安全・安心の確保</li> <li>●健やかなくらしへの貢献</li> <li>●持続可能な原料生産</li> <li>●環境と人権を尊重した責任ある調達</li> <li>●環境と人にやさしい物流</li> </ul>	
中			<ul style="list-style-type: none"> <li>●働き方の多様性（少子高齢化・感染症による変化）への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然資本の保全</li> <li>●消費者意識の多様化に応じた新たな価値提供</li> <li>●ダイバーシティ・インクルージョンの推進</li> </ul>	
小			<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域コミュニティへの貢献</li> </ul>		
	小	中	大		

ステークホルダーにとっての重要度

自社における重要度



# マテリアリティと重点テーマ (2023年～)

マテリアリティ	重点テーマ	SDGsとの対応
<p>人々の健やかなくらしと 多様なライフスタイルへの貢献</p>	<p>食の安全・安心の確保 健やかなくらしへの貢献 消費者意識の多様化に応じた新たな価値提供</p>	
<p>農業の持続可能性向上</p>	<p>持続可能な原料生産 自然資本の保全</p>	
<p>持続可能なサプライチェーンの共創</p>	<p>環境と人にやさしい物流 環境と人権を尊重した責任ある調達</p>	
<p>地球環境への配慮</p>	<p>カーボンニュートラルの達成 循環型社会の推進 プラスチックによる環境負荷の低減 自然資本の保全 地域コミュニティへの貢献</p>	
<p>多様性を尊重した全員活躍の推進</p>	<p>働き方の多様性への対応 ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</p>	

# TCFDとTNFDの開示フレームワーク 2025年目指す

対象範囲：グローバル

ガバナンス

戦略

リスク管理

指標と目標

シナリオ分析

リスクと機会

TCFD  
気候変動

対象範囲：グローバル

ガバナンス

戦略

リスクと影響の管理

指標と目標

シナリオ分析

LEAPアプローチ  
自然との接点/依存と影響

リスクと機会

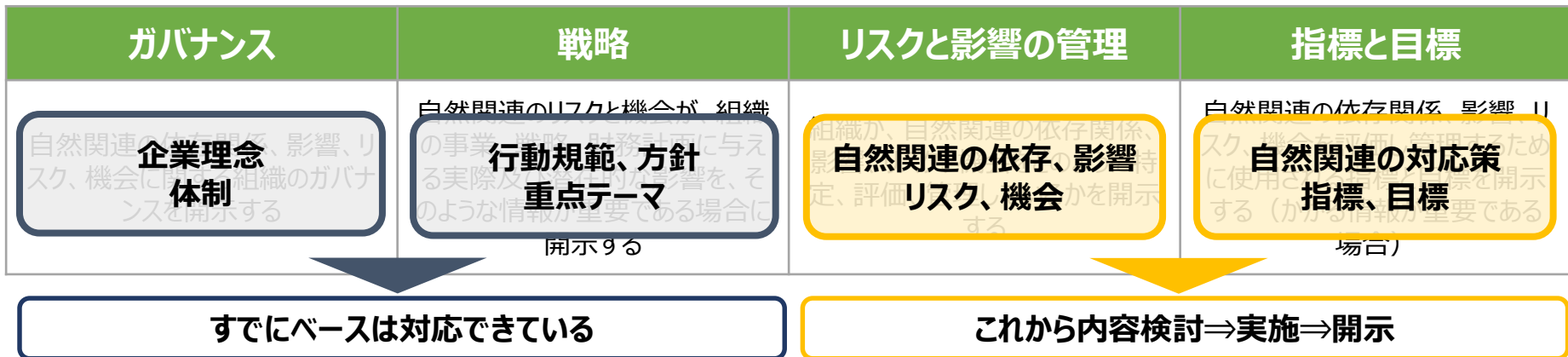
TNFD  
自然資本



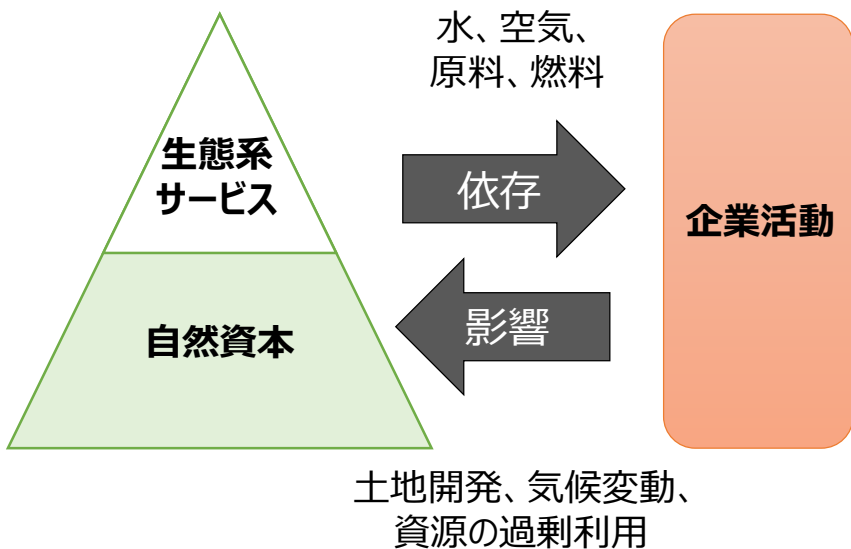
気候変動と自然資本の対応策  
シナジー・トレードオフの可能性

# 企業に求められるTNFD開示内容

## ◆ TNFD開示提言

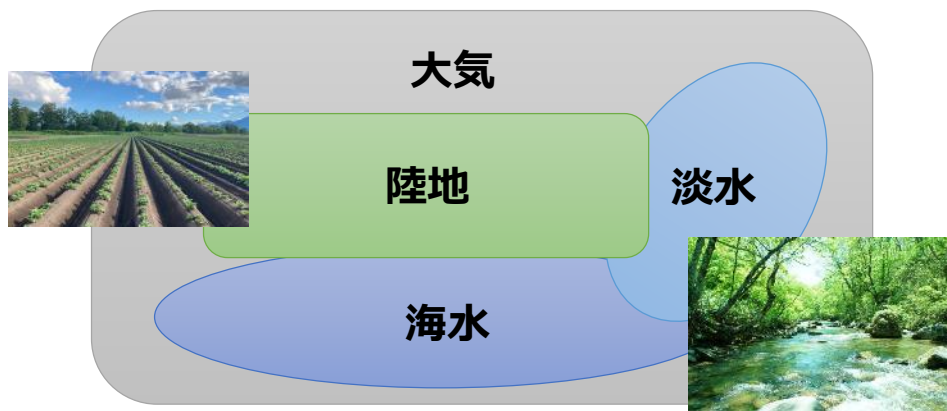


## ◆ TNFDの基本概念：依存と影響



出典：JBIB資料から一部抜粋

## ◆ 自然資本とビジネスとの接点 地球環境は4つに分類される



出典：TNFDから一部抜粋

# 【本日の内容】

1. カルビーグループの概要
2. サステナビリティ経営
3. **カルビーの環境課題への取り組み**
  - ・ **自然の恵みを持続可能に繋げる  
カーボンニュートラルの達成  
〈温室効果ガス排出量削減〉**

# カルビーグループの主な環境目標2030

## ① 温室効果ガス排出量削減

✓ 温室効果ガス総排出量 **30%削減** (2019年3月期比)

## ② プラスチックによる環境負荷の低減容器代替・削減

環境配慮型素材 **50%使用** → 2050年**100%使用**

## ③ 環境・人権に配慮した持続的な調達

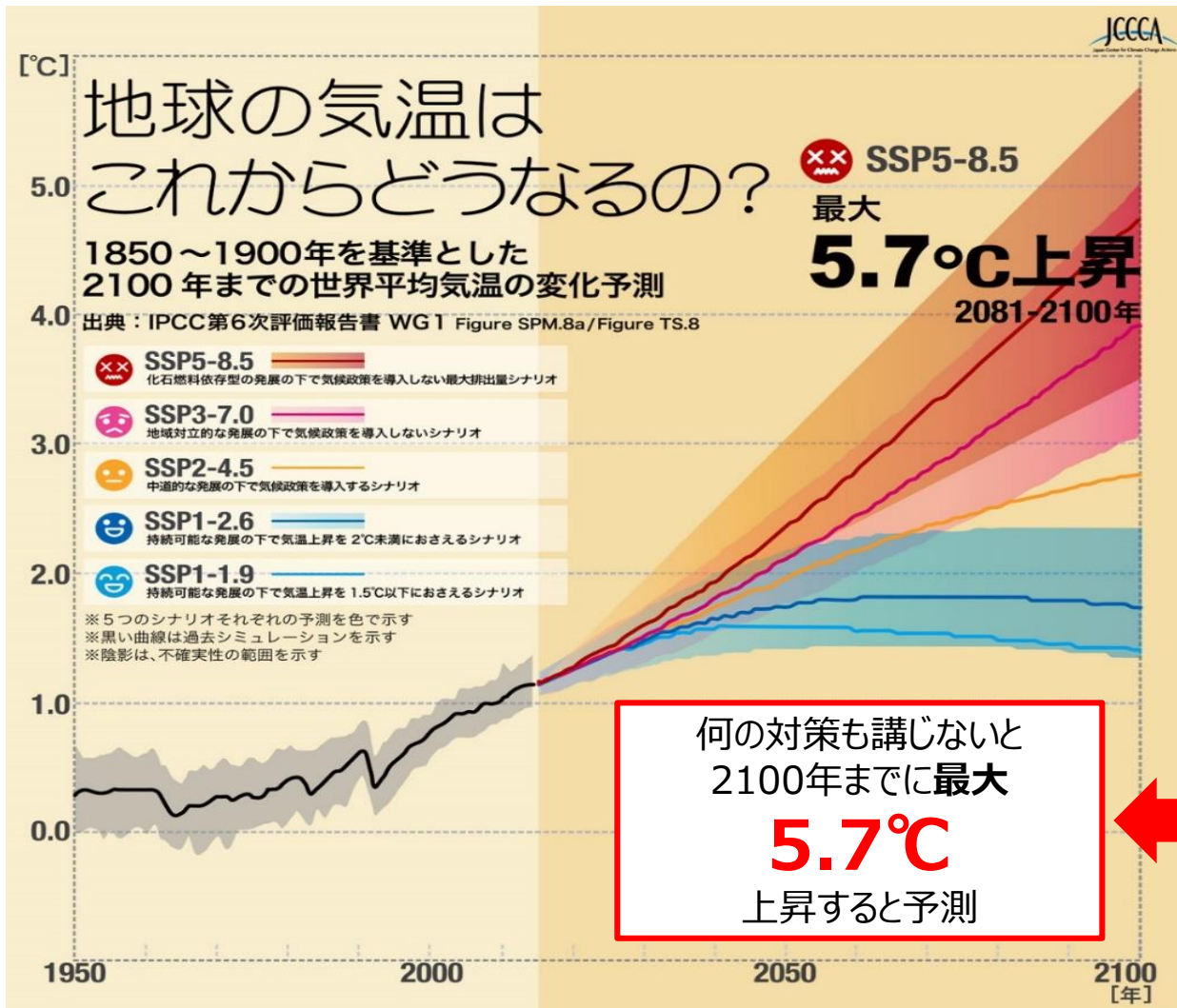
認証パーム油 **100%使用**

## ④ 循環型社会の推進

水の総使用量 **10%削減** (2019年3月期比)

廃棄物排出量 **10%削減** (2019年3月期比)

# 温室効果ガスの排出による 地球温暖化対策が世界全体で求められている



2015年パリ協定：目標  
**2.0°C以内に抑制**



産業革命前から  
地球の平均気温は  
**1.1°C** 上昇  
(2011～2020)



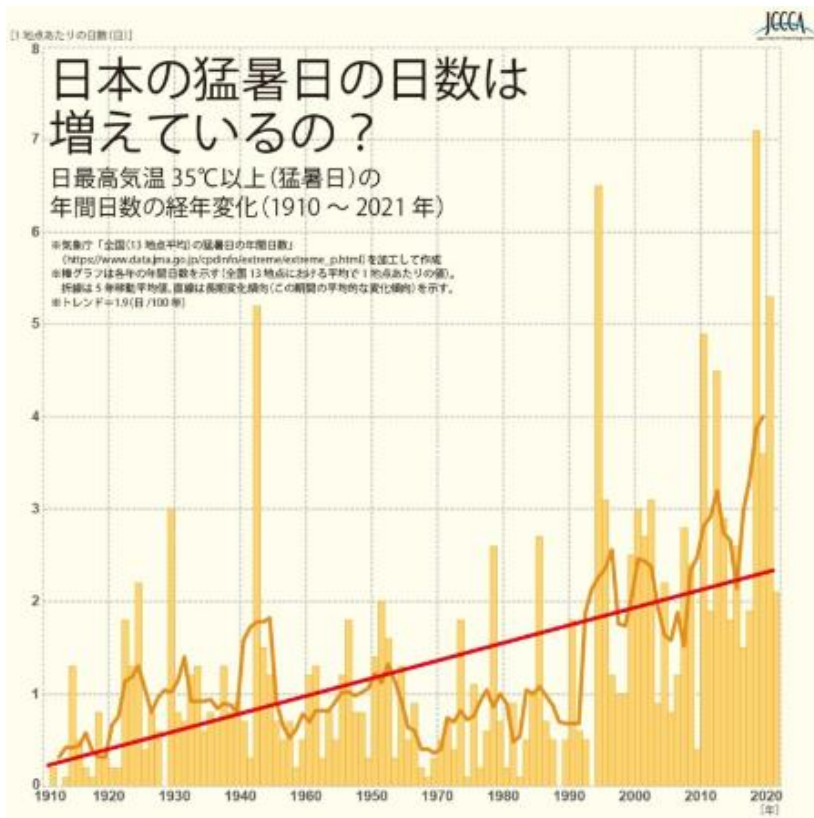
2021年グラスゴー協定  
**1.5°C未満に抑制**

ところが、  
2023年平均気温  
**1.48°C** 上昇

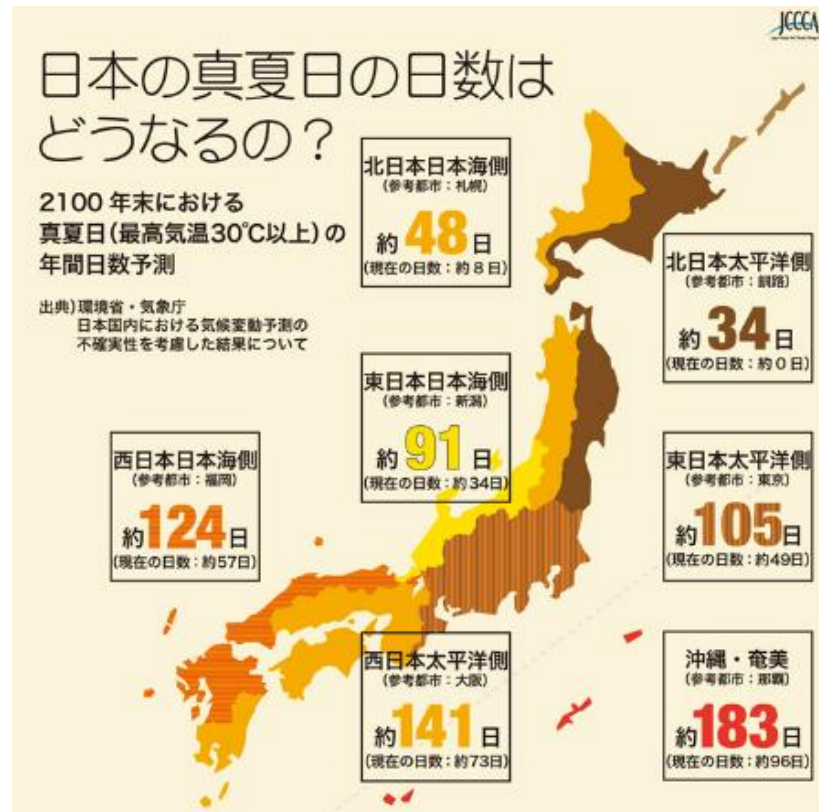


# ● 日本の現状

現在：猛暑日が増加中



2100年：日本の真夏日は約2倍以上



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター/気象庁

**水不足、日照時間の不足、暑さによる農業への影響、収穫量の減少、品質低下**

# 温室効果ガス（GHG） Scope1・2・3

上流

自社

下流

Scope3

Scope1

Scope2

Scope3



①原材料



④輸送・配送



⑦通勤

\*その他：②資本財、③Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動、⑤廃棄物、⑥出張、⑧リース資産



燃料の燃焼



電気の使用



⑪製品の使用



⑫製品の廃棄

\*その他：⑨輸送・配送、⑩製品の加工、⑬リース資産、⑭フランチャイズ、⑮投資

○の数字はScope 3 のカテゴリ

※2020年環境省サプライチェーン排出量算定に関する説明会資料より引用

# 温室効果ガス排出量削減 (Scope 1・2・3)

## 温室効果ガス総排出量

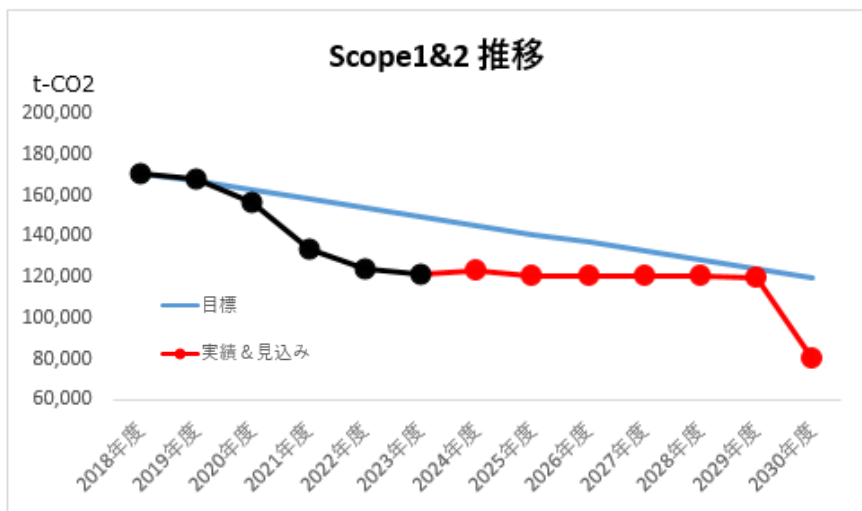
目標

2031年3月期  
**30%削減**  
(2019年3月期比)

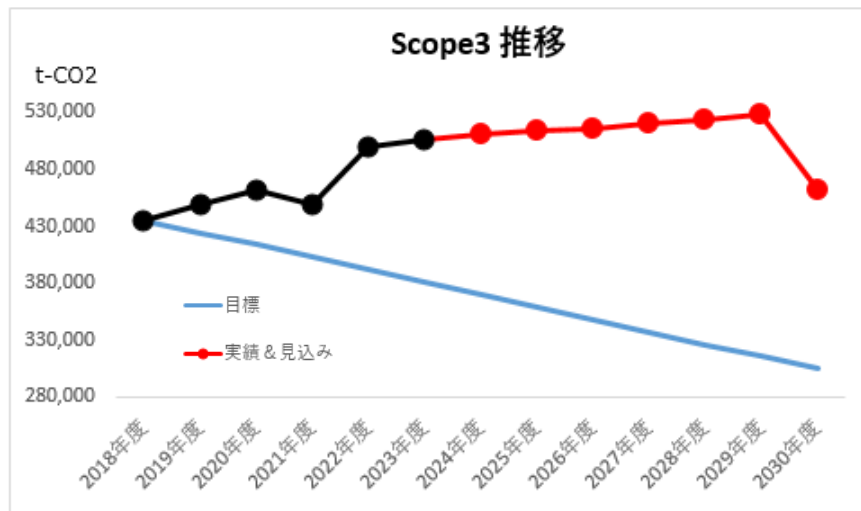
実績

2024年3月期  
**3.5%増加**  
Scope1: 11.6%削減  
Scope2: 57.3%削減  
Scope3: 16.3%増加  
(2019年3月期比)

## Scope 1・2 が削減できている



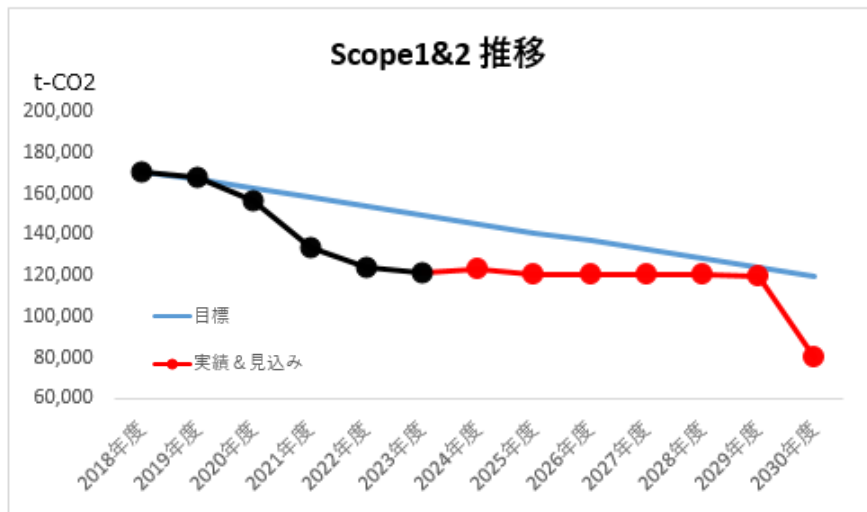
## Scope3の実績に計画とギャップ



※グラフは2024年3月期

# 温室効果ガス排出量削減（Scope1&2）

## 実績

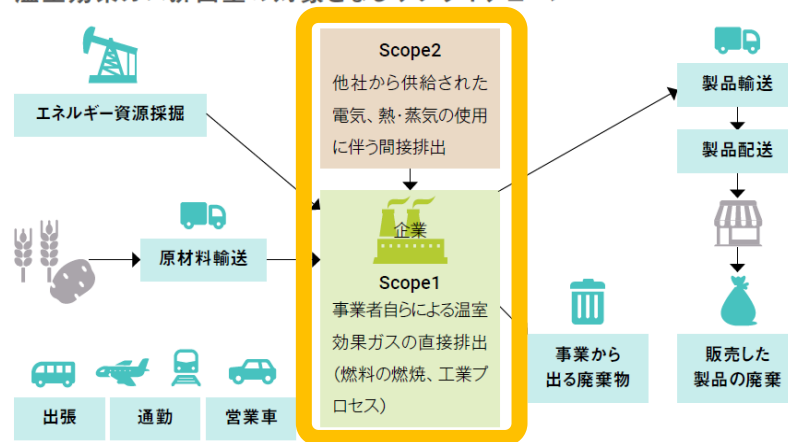


**Scope1 : 11.6%削減**  
**Scope2 : 57.3%削減**  
(2024年3月期)

## 削減に向けた着眼点

- ・省エネ活動（エネセン導入）  
エネルギー利用効率向上、廃熱利用
- ・電力購入先転換
- ・高温暖化係数ガスの漏洩削減

温室効果ガス排出量の対象となるサプライチェーン



※算定対象範囲は、当社の事業活動に該当するカテゴリー **Scope3** Scope1、Scope2以外の間接排出

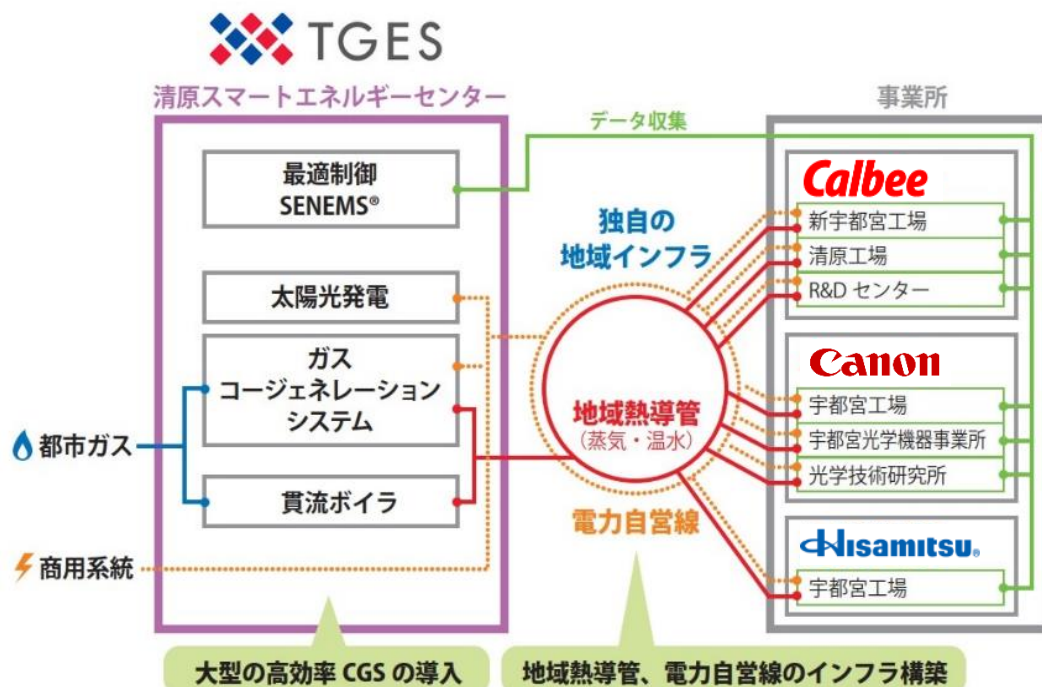
# 温室効果ガス排出量削減 (Scope1&2)

## 事業所間連携により大幅な省エネを実現 清原工業団地スマエネ事業

→2021年度 省エネ大賞 経済産業大臣賞を受賞



バイオガス発電設備 25kW×4基





参考

## スマエネとは？

↓  
 スマートエネルギーネットワークの略称。天然ガスを燃料に発電し、発電時に得られる廃熱を蒸気や温水として取り出し、発電した電気と合わせて有効利用する。エリア全体の熱・電力の需要と供給を最適化する。ガス利用、独自のインフラ、ロスが少ない、熱利用、が主たるポイント。

第31回  
 地球環境大賞  
 Since 1992  
 経済産業大臣賞

2023年3月1日

栃 木 県  
 宇 都 宮 市  
 カルビー株式会社  
 キヤノン株式会社  
 久光製薬株式会社  
 東京ガス株式会社  
 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社





# 温室効果ガス排出量削減（Scope1&2）

再生可能エネルギーへ切替

国内13工場のうち、10工場が切替済み

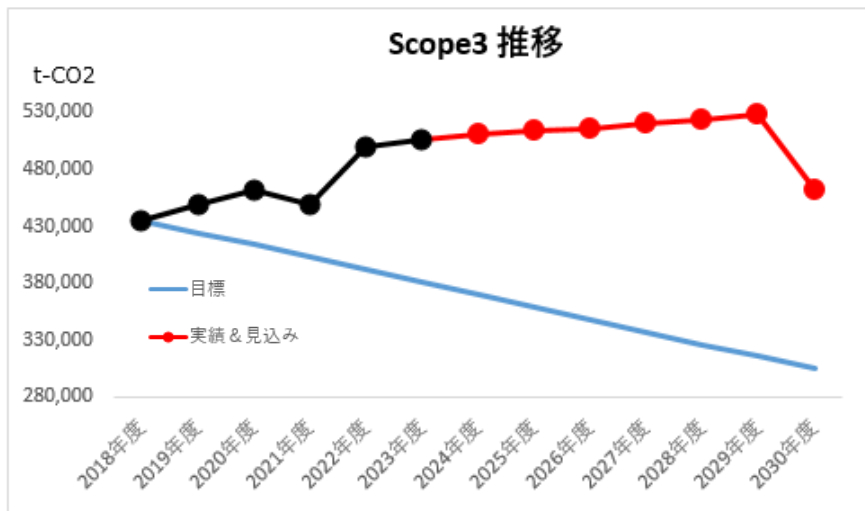


全電力CO<sub>2</sub>フリー化した各務原工場

カルビー工場	切替時期
下妻・JFL古河	2020年
北海道	
鹿児島	2021年2月
各務原・湖南・京都	2021年4月
広島・広島西	2021年9月
帯広工場	2024年度

# 温室効果ガス排出量削減 (Scope3)

## 実績

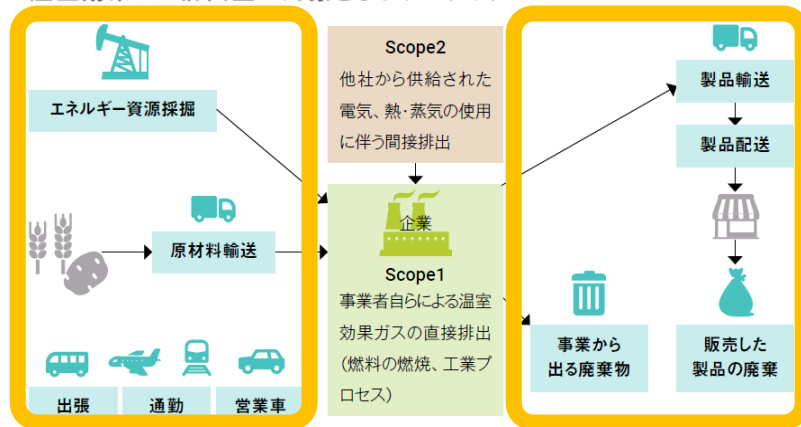


**約16.3%増加**  
(2024年3月期)

## 削減に向けた着眼点

- ・フィルム・ケースサイズの最適化
- ・原料輸送積載率UP
- ・製品輸配送積載率UP
- ・工場敷地内DC併設による横持ち廃止
- ・エコトラック導入

温室効果ガス排出量の対象となるサプライチェーン



※算定対象範囲は、当社の事業活動に該当するカテゴリー

**Scope3** Scope1、Scope2以外の間接排出

# 温室効果ガス排出量削減（Scope3）

削減に向けた着眼点（追加：2022年度以降）

## ＜環境省モデル事業に参画＞

Scope3カテゴリ1の主要排出源は、ばれいしょ・パーム油等の原材料や包装材が占める。  
⇒「ばれいしょ」を中心にScope3カテゴリ1に着目した活動を推進



環境省  
Ministry of the Environment

### 令和4年度大企業のサプライチェーン全体の 脱炭素化推進事業

事業概要

2022年6月20日  
地球環境局地球温暖化対策課



2022年08月05日 地球環境

サプライチェーン全体の脱炭素化に向けた支援事業への参加企業決定について

モデル事業の参加企業（4社）

- ・ カルビー株式会社
- ・ ソフトバンク株式会社
- ・ 高砂香料工業株式会社
- ・ 株式会社ワールド



[https://www.env.go.jp/press/press\\_00359.html](https://www.env.go.jp/press/press_00359.html)

ばれいしょ排出係数の見える化にも着手

# 環境省モデル支援事業にて、 Scope 3 削減ロードマップを策定



## SBT等の達成に向けた GHG排出削減計画策定ガイドブック (2022年度版)

<https://www.env.go.jp/content/000116060.pdf>

出典:環境省HP

環境省モデル事業令和元年度～令和4年度における参加企業の取組の事例を紹介します。

本ガイドブックへの理解を深めるため、ぜひ参考にしてください。

なお、各企業の事例の記載内容は各モデル事業終了時点の情報です。

モデル事業 実施年度	企業名	業種	概要	特に関連する章						ページ数
				0章	1章	2章	3章	4章	5章	
1	株式会社ワールド	アパレル	サプライヤーと共同での可視化・排出削減の取組			✓	✓			P.125
2 令和 4年度	カルビー株式会社	食品	サプライヤーエンゲージメントにおける排出削減の取組(生産者・原材料サプライヤー)			✓	✓			P.128

### 事例 2 カルビー株式会社： サプライヤーエンゲージメントにおける排出削減の取組(生産者・原材料サプライヤー)

令和4年度の環境省モデル事業に参加したカルビーは、主に国内の自社製造拠点でスナック菓子等の製造を行っています。この国内12工場において、2030年までに2019年3月期比でGHG総排出量30%削減を掲げています。スマエネ事業<sup>53</sup>による省エネや再生可能エネルギーの導入など、Scope1/2を中心に多数の施策を検討し取組を行っていますが、総排出量の約70%がScope3であり、中でもカテゴリ1が約半分を占めています。目標達成にはScope3のカテゴリ1において大幅な排出削減を検討する必要性がありました。そのため、カルビーのカテゴリ1の多くを占める原材料のうち、ばれいしょ生産者への働きかけによる削減と、それ以外の原材料サプライヤー企業とのエンゲージメントを通じた排出削減を検討しました。

## 排出量の 算定方法

調達品の「排出係数」



「調達重量 (または調達金額)」

## 現状の課題

現状の排出量算定に使用している係数は、排出係数の内訳が公開されておらず、施策による削減量測定ができない

【現状】  
食品関連材料CO2排出係数データベース

ばれいしょ:  
生産1kgあたり、CO2を●kg排出  
(内訳は非公開)

## 対応案

施策の削減効果を把握するため、  
排出係数の構成・積み上げがわかる  
「IDEA排出係数」に切り替える

IDEA(Inventory Database for  
Environmental Analysis)

ばれいしょ:  
生産1kgあたり、CO2を●kg排出

(例)ばれいしょ排出係数

- 肥料●kg使用 → CO2を●kg排出
- 燃料●MJ使用 → CO2を●kg排出



# ～G H G 算定の基本式（Scope1・2・3共通）～

活動量（使用量、調達量、輸送量）に  
各々に定められている排出係数を乗じて算定。

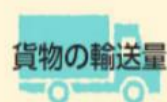


## 活動量

事業者の活動の規模に関する量。

社内の各種データや、文献データ、業界平均データ、製品の設計値等から収集する。

## 活動量の例



## 排出原単位の例

電気

1kWh使用あたりのCO<sub>2</sub>排出量

貨物の輸送量

1トンキロあたりのCO<sub>2</sub>排出量

廃棄物の焼却

1tあたりのCO<sub>2</sub>排出量

## 排出原単位

活動量あたりのCO<sub>2</sub>排出量。基本的には既存のDBから選択して使用するが、排出量を実測する方法や取引先から排出量情報の提供を受ける方法もある。



対象となる排出源		施策	削減率	削減インパクト
		削減施策		2030年 削減・転換率
肥料	窒素、リン酸、カリウム、マグネシウム	減肥・低排出係数肥料		<p>使用量削減及び 排出係数の低減 を算出</p>
農薬	殺菌剤、殺虫剤	散布量を削減		
資材	マルチシートなど	生分解性・ 環境配慮型素材を使用		
燃料	軽油・ガソリンなど	軽油をバイオ燃料へ切り替え		
その他		再生可能電力ほか		



**KPI** 温室効果ガス総排出量：2031年3月期 30%削減(2019年3月期比)  
リン酸減肥普及率(北海道エリア)：2028年3月期 80%

作物が生長するために必要な要素として、窒素・リン酸・カリウムが肥料の3大要素といわれています。ばれいしょも同様に栽培するにはこれらの肥料が欠かせません。カルビーグループでは、ホクレン農業協同組合連合会（以下ホクレン様）との連携により、さまざまな土質や条件によって違いがある畑の土壌分析を行い、それぞれの畑に合った適切な肥料の提案を行っています。

**科学的根拠に基づいた栽培技術の推進によりリン酸に着目し、ホクレン様を通じて、帯広畜産大学との共同研究を進め、得られた科学的根拠からリン酸の減肥の活動を推進しています。**

**さらにリン酸減肥の基準に基づきそれに対応する肥料銘柄の開発をホクレン様と実施し、北海道エリアにて開発した肥料銘柄の普及を共同で行っています。**

今後も自然資本の保全に向けて、ステークホルダーとの共創によって科学的根拠に基づく栽培技術を推進していきます。



## 2, 原材料サプライヤーとのエンゲージメント - アセスメント

サプライヤーアセスを実施し、現状把握。リスクと機会の洗い出し。

Global Compact CSR調達セルフアセスメント

カルビーオリジナルアセスメント

原材料サプライヤー200社中  
上位約〇〇%にアセスメント実施

〇〇社の回答

### プラスチック

- プラスチック方針あり: ●社
- 目標設定あり: ▲社

### 水の方針

- 方針設定: ●社

### 生物多様性の方針

- 取組み実施: ●社

### 温室効果ガス

- GHG方針あり: ●社
- 目標設定あり: ●社
- 改善取組みあり: ●社
- スコープ1&2算定: ●社
- スコープ3算定: ●社
- LCA算定: ●社

### パーム

### 人権

- 人権方針あり: ●社
- 人権尊重の取組み: ●社

# 原材料サプライヤーエンゲージメント – 対応方針と削減インパクト

原材料サプライヤー(上位約●●%)について、GHG削減目標の設定状況を調査し、エンゲージメントによる削減インパクトを試算

## 原材料サプライヤーの分類

		自社の目標設定状況		
		未設定	Scope1/2 設定済	Scope3まで 設定済
競合他社の 目標設定状況	Scope3 まで 設定済	1 競合他社を踏まえると、目標設定の余地あり	3 競合他社を踏まえると、Scope3の設定余地あり	5 競合他社の設定状況にかかわらず、自社はScope3まで設定済みのため、追加設定は必須ではない
	Scope 1/2 設定済		4 競合他社の水準を下回っていないため、Scope3の追加設定は必須ではない	
	未設定	2 競合他社も未設定なので、状況の精査が必要		

## 対応

エンゲージメント方針	対象
<b>サプライヤー削減目標のモニタリング</b> ・各社の削減目標への進捗状況を確認	3
	4
	5
<b>サプライヤーエンゲージメント</b> ・アセスメント・エンゲージメントを通じ、さらなる削減目標設定への働きかけ	1
	3
対応方針を個別に判断 ・サプライヤー種別に状況を精査し、エンゲージメント等の対応が必要か判断	2

**Fin**